

| | | | | | |
|---------------------|---|------|------|-------|---------------|
| 科目名称 | 表現のための英語A①③⑥ / 表現のための英語I①③⑥ | | | 授業コード | 10106053 |
| 担当教員 | 岡村 光浩 | | | | |
| 単位数 | 2.0 | 授業形態 | 講義 | 科目分類 | 外国語／コミュニケーション |
| 年次 | 2 | 開講年度 | 2020 | 開講学期 | 前期/後期 |
| 関連資格 | 教職 | | | | |
| 履修制限等 | 予備登録実施 | | | | |
| 授業の目的と到達目標(学修成果) | 英語をコミュニケーションツールとして発信するプロダクトとして、CM、映画、ドラマなどのテレビ番組の映像、その他デザイン、アートの世界、文学、音楽などを教材として使用し、どのように英語が表現され、発信されているかを学ぶ。そしてこれらの方法が自分たちの作品制作や表現活動にどのように応用できるかを考える。(以上『表現のための英語』全クラスの共通テーマ) このクラスでは、実際に現場で働いている経験者たちの声を聞くことで、英語の受信と発信技能を高めると同時に、自分自身のキャリアデザインを考える機会を持つ。 | | | | |
| 授業の概要(内容) | DVDを観ながらキャリアデザインに関して英語で学べる教材を使用し、各分野のプロフェッショナルの声を直接聞きながら、仕事内容を知ると同時に、各職場で求められている能力や資質、仕事におけるチャレンジとやり甲斐を知る。またグローバル人材として働くための準備の仕方や、大学生として将来必要なキャリア形成についても、英語で学びながら考えていきたい。 | | | | |
| 授業計画 | 1:オリエンテーション(授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他) 2:Unit 2: Advertising Sales Agent (1) Vocabulary ~ Viewing 3:Unit 2: Advertising Sales Agent (2) Comprehension ~ Practice 4:Unit 7: Fashion Designer (1) Vocabulary ~ Viewing 5:Unit 7: Fashion Designer (2) Comprehension ~ Practice 6:Unit 11: Interior Designer (1) Vocabulary ~ Viewing 7:Unit 11: Interior Designer (2) Comprehension ~ Practice 8:Unit 12: Video Editor (1) Vocabulary ~ Viewing 9:Unit 12: Video Editor (2) Comprehension ~ Practice 10:Unit 13: Desktop Publishing (1) Vocabulary ~ Viewing 11:Unit 13: Desktop Publishing (2) Comprehension ~ Practice 12:Unit 14: Event Planner (1) Vocabulary ~ Viewing 13:Unit 14: Event Planner (2) Comprehension ~ Practice 14:Unit 15: Photographer (1) Vocabulary ~ Viewing 15:Unit 15: Photographer (2) Comprehension ~ Practice | | | | |
| 実務経験のある教員 | | | | | |
| 授業時間外学習 | テキストの章ごとに小テストがあるので、十分予習をして授業に臨むこと。テキストの動画は、DVDが付属しているので、事前によく見ておくこと。不確かな文法事項や・語彙等については、参考テキストや辞書等を活用し復習しておくこと。 その他の課題については担当講師より指示する。 | | | | |
| 評価方法 | ・平常点(授業の進行に関する発言・発表等の積極性・貢献度)30% ・授業内の小テスト 40% ・課題等提出物 30% | | | | |
| 課題・試験に対するフィードバックの方法 | 小テストは採点后、誤答等について授業中に解説する。 提出された課題については、コメントをつけて返却すると共に授業内で全体的な講評を行う。 | | | | |
| 使用テキスト | 塩見佳代子ほか『Career Design on DVD』成美堂、2015年 | | | | |
| 参考テキスト・URL | 『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)3訂版』Cambridge UP、その他各担当講師より指示する。 | | | | |
| 各自準備物 | 英和／和英辞典:コンパスローズ(研究社)・ウィズダム(三省堂)・ジーニアス(大修館)等 (『リンガポルタ』を使用する場合は、PC・タブレット・スマートフォン・フィーチャーフォン(ガラケー)) | | | | |
| 実習費 | | | | | |
| その他 | 1.「基礎英語I」の単位修得が前提である。 2. 授業内容についてはクラス毎の進捗等により調整する場合がある。 3. 欠席は原則4回まで(予備登録期間含む)。なお遅刻30分以上は欠席扱いとする。 4. 積極的な Global Cafe の利用・英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。 英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 5. その他詳細は各担当講師より指示する。 | | | | |

| | | | | | |
|---------------------|--|------|------|-------|---------------|
| 科目名称 | 表現のための英語A②④ / 表現のための英語I②④ | | | 授業コード | 10206053 |
| 担当教員 | 小橋 薫 | | | | |
| 単位数 | 2.0 | 授業形態 | 講義 | 科目分類 | 外国語/コミュニケーション |
| 年次 | 2 | 開講年度 | 2020 | 開講学期 | 前期 |
| 関連資格 | | | | | |
| 履修制限等 | 予備登録実施、「その他」参照 | | | | |
| 授業の目的と到達目標(学修成果) | 英語をコミュニケーションツールとして発信するプロダクトとして、CM、映画、ドラマなどのテレビ番組の映像、その他デザイン、アートの世界、文学、音楽などを教材として使用し、どのように英語が表現され、発信されているかを学ぶ。そしてこれらの方法が自分たちの作品制作や表現活動にどのように応用できるかを考える。(以上『表現のための英語』全クラスの共通テーマ) このクラスでは、ネイティブの発音による日常英会話の理解力と、英語による基本的な自己表現力の習得ができる。 | | | | |
| 授業の概要(内容) | この授業では、ニューヨークの小学校を舞台とする映画を使用し、日常的な場面におけるリスニング力・語彙力と、自己表現の能力の向上を目指す。 特にUnit 1～Unit 7においては、リスニング力、Unit 8～Unit 12においては自己表現力向上の為のエクササイズが中心となり、ペア・ワーク、グループ・ワークを多く取り入れる。 | | | | |
| 授業計画 | 1:オリエンテーション(授業のねらい、学習の進め方、テキストについて) 2: Unit1 /n/+t/弱い母音における/t/の脱落 3: Unit2人称代名詞、前置詞などの弱形発音 4: Unit3濁ったthの音がナ行の子音のように聞こえる現象 5: Unit4 his,herなどの弱形での/h/の音の脱落 6: Unit52つの母音に挟まれた/t/がラ行の子音のように聞こえる現象 7: Unit6&7母音+/t/+弱い母音+/n/において弱い母音が脱落する現象 8: Review 9: 小テスト+Paragraph Writing 10: 英語の母音/i/の発音 + ペアワークによるwriting 11: Unit9 母音の続かない/l/の発音 + ペアワークによるwriting 12: Unit10 /s/や/z/+ヤ行の子音の音の変化 + Paragraph writing 13: Unit11&12イギリス英語とアメリカ英語の発音の違い 14: Review 15: まとめの小テスト+ Writing review | | | | |
| 実務経験のある教員 | | | | | |
| 授業時間外学習 | 次回学習ページの語彙、質問事項をしっかりと確認すること。また、スクリプトを精読し、前回の授業までのストーリー展開を確かめておくこと。 | | | | |
| 評価方法 | 予習状況、受講姿勢、提出物など(60%)、小テストの得点(40%)により総合的に評価する。 | | | | |
| 課題・試験に対するフィードバックの方法 | 英文エッセイなどは添削の後返却する、または、優秀なものを授業内で紹介する。 | | | | |
| 使用テキスト | 「ミュージック・オブ・ハート」沖野泰子／南條健助／森岡裕一／山科美和子／横山三鶴共著 英宝社 | | | | |
| 参考テキスト・URL | | | | | |
| 各自準備物 | テキスト、授業で配布のスクリプト、英和・和英辞典 | | | | |
| 実習費 | | | | | |
| その他 | 1. 「基礎英語I」の単位修得が前提である。 2. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 3. 欠席は原則4回まで(予備登録期間含む)。なお遅刻30分以上は欠席扱いとする。 4. 積極的な Global Cafe の利用・英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。 英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 5. その他詳細は各担当講師より指示する。 6. 授業中は携帯電話やスマートフォンはカバンの中に入れておくこと。 | | | | |

| | | | | | |
|---------------------|---|------|------|-------|---------------|
| 科目名称 | 表現のための英語A ⑤ / 表現のための英語 I ⑤ | | | 授業コード | 20506053 |
| 担当教員 | 北岡 一弘 | | | | |
| 単位数 | 2.0 | 授業形態 | 講義 | 科目分類 | 外国語/コミュニケーション |
| 年次 | 2 | 開講年度 | 2020 | 開講学期 | 後期 |
| 関連資格 | | | | | |
| 履修制限等 | 予備登録実施、「その他」参照 | | | | |
| 授業の目的と到達目標(学修成果) | <p>英語をコミュニケーションツールとして発信するプロダクトとして、CM、映画、ドラマなどのテレビ番組の映像、その他デザイン、アートの世界、文学、音楽などを教材として使用し、どのように英語が表現され、発信されているかを学ぶ。そしてこれらの方法が自分たちの作品制作や表現活動にどのように応用できるかを考える。(以上『表現のための英語』全クラスの共通テーマ)</p> <p>このクラスでは、英語の歌を使って、英語を楽しく学習しながら、海外事情や異文化の理解を深めてもらいたい。この授業では、以下を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語で自分の言いたいことを表現できる。 2. 海外旅行で使える英語を習得できる。 3. 新しい価値観や文化を習得できる。 4. 正しい発音を習得できる。 | | | | |
| 授業の概要(内容) | <p>音楽や映像などを用いて、英語力の向上を目的とする。</p> <p>また、授業内において英語を用いたコミュニケーションを行い、英会話を楽しみながら、より良い人間関係を構築する術を学ぶ。</p> <p>この授業は積極的に授業に参加し発言する事が求められる。座って聞くだけの座学の授業ではないので注意すること。知らない人たちと話すことで、新たな交友を広げたいと思う学生であれば誰でも歓迎する。</p> | | | | |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1:オリエンテーション 2:発音練習(1) 3:発音練習(2) 4:発音練習(3) 5:発音練習(4) 6:発音練習(5) 7:発音テスト、小テスト1 8:視聴覚教材1、発音の練習 9:視聴覚教材2、発音の練習 10:視聴覚教材3、発音の練習 11:小テスト2 12:視聴覚教材4、発音の練習 13:視聴覚教材5、発音の練習 14:視聴覚教材6、発音の練習 15:最終テスト、まとめ | | | | |
| 実務経験のある教員 | | | | | |
| 授業時間外学習 | 課題は必ず毎回やっておくこと。各自練習をして参加することを前提に授業を行う。 | | | | |
| 評価方法 | 授業参加、提出課題、感想、小テスト、発音テスト(以上で70%)、授業内試験[授業で使った教材を利用](30%)によって、総合的に評価する。 | | | | |
| 課題・試験に対するフィードバックの方法 | 授業時間内にフィードバックを行う。 | | | | |
| 使用テキスト | なし。資料は授業にて配布する。 | | | | |
| 参考テキスト・URL | | | | | |
| 各自準備物 | 電子辞書、携帯(スマートフォンが望ましい)、QRコードリーダー(携帯アプリ)、USB メモリ | | | | |
| 実習費 | | | | | |
| その他 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 「基礎英語I」の単位修得が前提である。 2. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 3. 欠席は原則4回まで(予備登録期間含む)。なお遅刻30分以上は欠席扱いとする。 4. 積極的な Global Cafe の利用・英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 5. その他詳細は各担当講師より指示する。 | | | | |

| | | | | | |
|---------------------|---|------|------|-------|---------------|
| 科目名称 | 表現のための英語B ① / 表現のための英語II ① | | | 授業コード | 10106033 |
| 担当教員 | 岡村 光浩 | | | | |
| 単位数 | 2.0 | 授業形態 | 講義 | 科目分類 | 外国語／コミュニケーション |
| 年次 | 2 | 開講年度 | 2020 | 開講学期 | 前期 |
| 関連資格 | 教職 | | | | |
| 履修制限等 | 予備登録実施 | | | | |
| 授業の目的と到達目標(学修成果) | <p>英語をコミュニケーションツールとして発信するプロダクトとして、CM、映画、ドラマなどのテレビ番組の映像、その他デザイン、アートの世界、文学、音楽などを教材として使用し、どのように英語が表現され、発信されているかを学ぶ。そしてこれらの方法が自分たちの作品制作や表現活動にどのように応用できるかを考える。(以上『表現のための英語』全クラスの共通テーマ)</p> <p>このクラスでは、新形式の TOEIC テストの問題に慣れ、スコアUPのためのコツを身につける。必要に応じ、英語コミュニケーション能力の基礎となる、英単語や英文法の基礎的な知識を確認する。</p> | | | | |
| 授業の概要(内容) | <p>TOEIC L&R テストに頻出の語彙や表現が繰り返し編みこまれた問題を段階的に学習することにより、問題パターンに慣れ、スコアアップを目的とした総合的な対策を行う。また、各パートの解法や英文法の基礎的な知識を確認する。汎用性の高い表現を繰り返し学ぶことにより、実践的かつ総合的な英語力のアップを図る。</p> | | | | |
| 授業計画 | <p>1:オリエンテーション(授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他)</p> <p>2:Unit 1: Home Appliances (Part 1,2,5)</p> <p>3:Unit 1: Home Appliances (Part 5)</p> <p>4:Unit 2: Recreation (Part 3)</p> <p>5:Unit 2: Recreation (Part 6)</p> <p>6:Unit 3: Restaurants (Part 4)</p> <p>7:Unit 3: Restaurants (Part 7)</p> <p>8:中間まとめ</p> <p>9:Unit 4: Supermarket Shopping (Part 1,2)</p> <p>10:Unit 4: Supermarket Shopping (Part 5)</p> <p>11:Unit 5: Housing (Part 3)</p> <p>12:Unit 5: Housing (Part 6)</p> <p>13:Unit 6: Business (Part 4)</p> <p>14:Unit 6: Business (Part 7)</p> <p>15: TOEIC Mini-test、最終まとめ</p> | | | | |
| 実務経験のある教員 | | | | | |
| 授業時間外学習 | <p>毎回小テストがあるので、十分予習をして授業に臨むこと。不確かな文法事項や・語彙等については、参考テキストや辞書等を活用し復習しておくこと。</p> <p>その他の課題については、授業時に担当講師より指示する。</p> <p>なお使用テキストは「リングポルタ」Webシステム https://goo.gl/RvBW69に対応しているので、授業時間外学習の課題として使用する。</p> | | | | |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・平常点(授業の進行に関する発言・発表等の積極性・貢献度)40%※ ・授業内の小テスト(章ごとに実施する単語テスト) 30% ・授業内の小テスト(毎回実施する「横断的コア表現」テスト) 20% ・最終回実施の TOEIC Mini-test 10% <p>※使用テキストは「リングポルタ」Web システム https://goo.gl/RvBW69に対応しているので、e-learning での得点を平常点に加味する。</p> | | | | |
| 課題・試験に対するフィードバックの方法 | <p>小テストは採点后、誤答等について授業中に解説する。</p> <p>提出された課題については、コメントをつけて返却すると共に授業内で全体的な講評を行う。</p> <p>「リングポルタ」を授業外学習として使用する場合、フィードバックは自動で行われ、学習項目の定着の度合いは受講者・担当講師の双方が確認でき、また担当講師と質問のやりとりもできる。</p> | | | | |
| 使用テキスト | 薮 寛美ほか『An Amazing Approach to the TOEIC L&R Test 』成美堂、2019年 | | | | |
| 参考テキスト・URL | 『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)3訂版』Cambridge UP, その他担当講師より指示する。 | | | | |
| 各自準備物 | 英和／和英辞典:コンパスローズ(研究社)・ウィズダム(三省堂)・ジーニアス(大修館)等 (「リングポルタ」を使用するため)PC・タブレット・スマートフォン・フィーチャーフォン(ガラケー) | | | | |
| 実習費 | | | | | |

その他

1. 「基礎英語 I」の単位修得が前提である。
2. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。
3. 欠席は原則4回まで(予備登録期間含む)。なお遅刻30分以上は欠席扱いとする。
4. 積極的な Global Cafe の利用・英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。
英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。
5. その他詳細は各担当講師より指示する。

基礎
教育

| | | | | | |
|---------------------|---|------|------|-------|---------------|
| 科目名称 | 表現のための英語B ②③ / 表現のための英語II ②③ | | | 授業コード | 20206033 |
| 担当教員 | 小橋 薫 | | | | |
| 単位数 | 2.0 | 授業形態 | 講義 | 科目分類 | 外国語/コミュニケーション |
| 年次 | 2 | 開講年度 | 2020 | 開講学期 | 後期 |
| 関連資格 | | | | | |
| 履修制限等 | 予備登録実施、「その他」参照 | | | | |
| 授業の目的と到達目標(学修成果) | 英語をコミュニケーションツールとして発信するプロダクトとして、CM、映画、ドラマなどのテレビ番組の映像、その他デザイン、アートの世界、文学、音楽などを教材として使用し、どのように英語が表現され、発信されているかを学ぶ。そしてこれらの方法が自分たちの作品制作や表現活動にどのように応用できるかを考える。(以上『表現のための英語』全クラスの共通テーマ) このクラスでは、日常やビジネスにおける英会話の理解力と、小論文などによる自己表現力の習得する。 | | | | |
| 授業の概要(内容) | この授業では、ニューヨークのファッション業界を舞台とする映画を使用し、ビジネスの世界におけるリスニング力・語彙力と、自己表現の能力の向上を目指す。 特に前半においては、ビジネス場面の語彙の習得、後半においては自己表現力向上の為のエクササイズが中心となり、ペア・ワーク、グループ・ワークを多く取り入れる。 | | | | |
| 授業計画 | 1: 授業方針説明とSelf-Introduction 2: Andy Meets Miranda 3: Andy's First Day at Runway 4: Miranda, the Almighty 5: Andy's Metamorphosis 6: Andy Performs a Miracle 7: 小テスト+ Review 1 8: Andy's Stock Goes Up 9: Andy's Dilemma 10: A Night in Paris 11: A Plot against Miranda 12: Andy's Final Choice 13: Review 2 14: まとめ的小テスト + 実践練習1 15: 実践練習2 | | | | |
| 実務経験のある教員 | | | | | |
| 授業時間外学習 | テキストの語彙問題の予習、設問の理解、前回の授業までのストーリーに関するスクリプトの読解などを通して、語彙力、表現力の習得を目指すこと。 | | | | |
| 評価方法 | 予習状況、受講姿勢、提出物など(60%)、小テストの得点(40%)により総合的に評価する。 | | | | |
| 課題・試験に対するフィードバックの方法 | 英文エッセイなどは添削の後返却する、または、優秀なものを授業内で紹介する。 | | | | |
| 使用テキスト | 映画総合教材『ブラダを着た悪魔』/AlineBroshMcKenna著 神谷久美子KimR.Kanel 編著:松柏社 | | | | |
| 参考テキスト・URL | | | | | |
| 各自準備物 | テキスト、英和・和英辞典は必ず持参のこと。 | | | | |
| 実習費 | | | | | |
| その他 | 1. 「基礎英語I」の単位修得が前提である。 2. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 3. 欠席は原則4回まで(予備登録期間含む)。なお遅刻30分以上は欠席扱いとする。 4. 積極的な Global Cafe の利用・英語による／英語に関係したイベントへの参加を推奨する。 英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 5. その他詳細は各担当講師より指示する。 6. 授業中は携帯電話やスマートフォンはカバンの中に入れておくこと。 | | | | |

| | | | | | |
|---------------------|---|------|-------|----------|---------------|
| 科目名称 | 現代英語 ①② | | 授業コード | 20206231 | |
| 担当教員 | 岡村 光浩 | | | | |
| 単位数 | 2.0 | 授業形態 | 講義 | 科目分類 | 外国語/コミュニケーション |
| 年次 | 2 | 開講年度 | 2020 | 開講学期 | 後期 |
| 関連資格 | | | | | |
| 履修制限等 | 予備登録実施 | | | | |
| 授業の目的と到達目標(学修成果) | このクラスでは、日本のポップカルチャーに関わる文献を読んでいくことを通じて、作品制作や表現活動について英語で語れる「引き出し」を増やすことを目指す。 | | | | |
| 授業の概要(内容) | 身近な日本のポップカルチャーについて、クリティカル・シンキングを盛り込みつつ、自文化の再発見にアプローチする教材を用いて、外国人が感じる不思議な文化や習慣の違いを英文で紐解き、語彙、リスニング、それに関連する文法事項を学習する。 | | | | |
| 授業計画 | 1: オリエンテーション(授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他) 2: Unit 1: One Piece and the world's favorite pirates (1) Vocabulary, Reading 3: Unit 1: One Piece and the world's favorite pirates (2) Listening, Grammar 4: Unit 3: The genius of Japanese animation (1) Vocabulary, Reading 5: Unit 3: The genius of Japanese animation (2) Listening, Grammar 6: Unit 8: Virtual love (1) Vocabulary, Reading 7: Unit 8: Virtual love (2) Listening, Grammar 8: Unit 9: Otaku and proud! (1) Vocabulary, Reading 9: Unit 9: Otaku and proud! (2) Listening, Grammar 10: Unit 10: Similar but not the same: food cultures abroad (1) Vocabulary, Reading 11: Unit 10: Similar but not the same: food cultures abroad (2) Listening, Grammar 12: Unit 13: Pokémon: Do we really have to catch'em all? (1) Vocabulary, Reading 13: Unit 13: Pokémon: Do we really have to catch'em all? (2) Listening, Grammar 14: Unit 15: Pop peace (1) Vocabulary, Reading 15: Unit 15: Pop peace (2) Listening, Grammar | | | | |
| 実務経験のある教員 | | | | | |
| 授業時間外学習 | テキストの章ごとに小テストがあるので、十分予習をして授業に臨むこと。不確かな文法事項や語彙等については、参考テキストや辞書等を活用し復習しておくこと。 その他の課題については、授業時に担当講師より指示する。 | | | | |
| 評価方法 | ・平常点(授業の進行に関する発言・発表等の積極性・貢献度)30% ・授業内の小テスト 40% ・課題等提出物 30% | | | | |
| 課題・試験に対するフィードバックの方法 | 小テストは採点后、誤答等について授業中に解説する。 提出された課題については、コメントをつけて返却すると共に授業内で全体的な講評を行う。 | | | | |
| 使用テキスト | Stuart Gale ほか『Japan Goes Global! Thinking critically about Japanese popular culture』南雲堂、2018年 | | | | |
| 参考テキスト・URL | 『総合英語 Factbook』桐原書店、『ジーニアス総合英語』大修館書店、『マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)3訂版』Cambridge UP, その他各担当講師より指示する。 | | | | |
| 各自準備物 | 英和/和英辞典:コンパスローズ(研究社)・ウィズダム(三省堂)・ジーニアス(大修館)等 | | | | |
| 実習費 | | | | | |
| その他 | 1. 「基礎英語 I」の単位修得が前提である。 2. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。 3. 欠席は原則4回まで(予備登録期間含む)。なお遅刻30分以上は欠席扱いとする。 4. 積極的な Global Cafe の利用・英語による/英語に関係したイベントへの参加を推奨する。 英語イベントへの参加等については成績に加味する場合がある。 5. その他詳細は各担当講師より指示する。 | | | | |